白門５０会 会報

第11号

2011年(平成23年)

発　行　中央大学学員会「白門５０会」支部
編　集　広報部会　外村幸雄（法・政治）　山下史雄（法・政治）
投稿/連絡
山下史雄　E-mail: grande8131pescad@kub.biglobe.ne.jp
※投稿は電子メールで。電子メールの写真は.jpegでお願いします。

JICAボランティア 政金驍さんが熱いメッセージ

必要とされる場所は必ずある

マラウイに赴任１年

アフリカ大陸南東部のマラウイ共和国でボランティアの仕事をされている我らが同期の政金驍さんから熱いメッセージが届きました。政金さんは大手石油会社を退職後、自動車整備士専門学校の講師を経て約１年前、かねてからの考え「海外で人の役に立つ仕事をしたい」、この夢を実行するため、JICA から単身マラウイに渡られました。

現在、同国最大の都市ブランタイヤ市役所の車輌整備課でアドバイザーとして活躍しておられます。

厳しい生活環境と治安状況の中で政金さんは「自分を必要としている場所はどこかに必ずある」と、強調されています。（編集部）

火炎（焔）樹の下でくつろぐ政金さん（マラウイ・ブランタイヤ市）

マラウイに来て間もなく１年になろうとしています。この１年間に見たこと、聞いたこと、感じたこと等をまとめてみました。先ずマラウイがアフリカのどこにあるかご存知でしょうか？私も赴任が決まる前までは、世界のどこにあるのか知りませんでした。ほとんどの日本人は知らないのではないでしょうか？

日本とマラウイの関係は JICA がボランティアを派遣し始めてから今年で４０年を迎えるくらい密接な関係があります。累計のボランティアの人数は世界中で一番多く 1,000 人を超えています。中央アフリカの南、タンザニア、モザンビーク、ザンビアに囲まれた小さな国です。国土の 1/5 を占めるマラウイ湖に沿った国です。面積は北海道と九州を合わせたくらい、人口は東京都に匹敵する 12,00 万人です。世界最貧国の一つで、１日１米ドル以下で暮らす人が国民の５０％以上を占めています。マラウイの第一印象は空が綺麗な事、年中いろいろな花が咲いています。しかもその花が咲く木が大きいのです。周辺の人々はとてもフレンドリーで町を歩くと初対面の人でも声を掛けてくれます。全く知らない人に突然マイフレンド言われてえっ！あなたの事は知らないよって思ったことは何回もあります。治安は日本に比べてかなり悪いです。しかし１年経って、周辺の人にも慣れてきた今はそれ程治安が悪いとは感じなくなりました。こういう時が一番危ないと言われています。私の住むブランタイヤ市はマラウイ第一の地方都市で、人口６０万人を超えています。高層の建物が少なく高くても１０階もある建物は数える位です。インフラの整備が非常に悪く歩道はむき出しの泥の所が市街地を離れると当たり前です。下水道など全くなく家庭排水が道路脇の溝を流れています。ですから雨期の今、蚊の発生が多くマラリヤにかかる人が多く、亡くなる人も多いのです。

随分長くなりましたがまだまだ書き足りない位ですが今回はこの辺でひとまず終わりに致します。

平成２３年２月１０日　文・政金驍　終面に１問１答

続けてよかった！　周りも「中大頑張れ！」

箱根駅伝　応援記

2011 年、今年も箱根駅伝の応援に出かけました。2010 年の出雲駅伝では 6 位、全日本大学対抗駅伝で７位と、なんとはなく不本意な成績の駅伝部、シード権保持の回数と、最多優勝を誇る箱根で、きっと挽回してくれるだろうと大いに期待して出かけました。例年、応援場所として確保していたホテル（うたゆの宿）が今年は予約できませんでした。とは言え、小涌谷から恵明学園を過ぎたあたりからの上りの直線区間、毎年、白門 50 会が応援を続け、中大Ｃマークの幟と小旗で賑やかせてきたこの場所を、簡単に他の大学に明け渡すわけにいかないと、同じ場所を応援拠点としました。

往路は午前 11 時に現地集合にしました。私は、大船から小田原駅まで電車、東京からの大野さんの車に乗せてもらい現地に向かいました。大野さんの車にはすでに吉田さん、小口さん、浅見さんが乗っていました。多摩方面から来る清野さんの車には小谷さんが、電車、バスでお越しの石川さんも遅れて駆けつけました。それに今回は北崎さんのご紹介で只松さんご夫妻も参加されました。地元杉本さんを含め総勢 11 名での応援でした。

集合したのち往路応援のための設営を終え、杉本さんから箱根神社の神酒が差し入れられ、まずは全員で新年のご挨拶と、中大の検討を祈り乾杯をしました。ラジオで第二区の 17 位との心配な情報も入りました。しかし、箱根に近づくにつれどんどん順位を挽回し、どうやら 8 位で当地を通過するであろうことも事前に分かりました。大石君は 4 年生、昨年の実績もあり浦田監督も期待するランナーです。待機する我々も、自然と力が入ってきます。我々の陣取る中大ストリートには、近くの宿泊客、あるいは観光客、駅伝応援だけで来た人たちでたちまちにぎやかになります。全員が中大の小旗を振ります。白門 50 会では、布製の小旗をいつも 200 本持ち込みます。

欲しいと取りに来る人たちに配ると瞬く間になくなります。しかし、惜しくはありません。このストリートが中大色に染まるだけで爽快ですから。

今年の前評判は出雲、全日本を制した早稲田と、柏原選手を擁する東洋大が優勝候補として挙げられていました。予想通り、早稲田が往路を制しそうな勢いで箱根の山に入りました。山登りの柏原、今年もやってくれました。

ちょうど我々の目の前で先行する早稲田を抜いていったのです。そんなおかげでテレビにばっちり映ったのは小口さんでした。後日録画を確認すると中大の小旗が打ち振られる様子がしっかりと映っていて、これまた爽快でした。

路応援後、例年通り近くの猪鍋屋「たきのや」で新年会です。今年もなじみの奥さまたちが我々を迎えてくれました。「中大頑張れ！」といつも励ましてくれます。今年は何と会にカンパまでしてくれました。継続は金とはこのことでしょうか。（笑）

今年はホテルが取れないため小田原駅前の「万葉の湯」で懇親会及び宿泊としました。翌朝は 6 時に出発です。

7 時前に応援現場に到着、太鼓などを準備し復路六区、山下君を待ちます。芦ノ湖 8 時スタートの復路、トップの東洋大が通過して、まだかまだかと中大山下君を待ちます。トップから十数分後にやっと山下君がすぐ前の日体大を抜きそうな勢いでやってきました。声援のボルテージが最大に上がった瞬間です。

今年は総合 6 位で終えましたが、往路の出遅れをその後の選手全員で挽回した底力を見せてもらいました。

ホテル前での応援なので、うたゆの宿に宿泊された方は皆さん中大の小旗を振ってくれます。さらに、うたゆの宿と特別の関係のある方が、我々の来年の予約を確保してくれました。これもありがたい縁です。そういうわけで、来年 2 月 2 日は「うたゆの宿」10 名分を確保済みです。さらに 5 人分を夏ごろに手配する予定です。箱根駅伝を生で味わいにいらしてください。さてお知らせですが、本年度の白門 50 回総会を 6 月 4 日（土曜日）駿河台記念館で開催する予定です。記念公演として中大陸上競技部駅伝監督の浦田春生氏にお願いすることになりました。あらためてご案内いたしますので、どうかお誘い合わせの上、たくさんのご参加をお待ちしております。

文・山井　俊昭

「タイムトラベル中大１２５（1885→2010）」を差し上げます

本学は、昨年（2010 年）創立１２５周年を迎え、記念式典をはじめ数多くの記念行事を実施してまいりました。11 月 13 日には、多摩校舎で記念式典を執り行い駿河台を学び舎とした数多くの卒業生にご来校いただきました。ｲﾝﾀｰﾈｯﾄを通して式典の様子をご覧になられた方もおありのことと存じます。本学では、これを記念して「タイムトラベル中大１２５（1885→2010）」（A5 ｻｲｽﾞ、312 頁）を刊行しました。この刊行物は、広くみなさま方に本学の歴史をふれていただければと考え、１２５年の歩みを振り返るさいのよきガイドとなり、過去を未来へとつなげる橋渡しの役割を果たすことができればとの願いのもと、「学員時報」に連載した「タイムトラベル中大百年」を再編集し、百周年以後の歴史を加筆したﾌﾞｯｸです。

数に限りはありますが、ご希望の方は下記までご連絡ください。

（連絡先）塩谷治史

住所：東京都八王子市東中野 742-1　中央大学体育センター事務室内（〒192-0393）

FAX：042-674-3895

e-mail：sioya@tamajs.chuo-u.ac.jp

「邪馬台国?」を訪ねて

北崎　邦彦（理工）

先日、叔父の見舞いで、九州の福岡・朝倉を訪ねた。そこは菅原道真で有名な大宰府から車で２０－３０分の所にある、筑紫平野の真ん中の田んぼばかりの所である。この朝倉とそのお隣の甘木は、「邪馬台国」の九州説で比定されている場所の１つなのだ。

「邪馬台国」には、一般に九州説と畿内説の２つが論争を繰り返して来ており、どちらが本当の比定地なのかはっきりしない、歴史ロマンの舞台である。

九州説は東京大学の白鳥倉吉教授が、畿内説は京都大学の内藤虎次郎教授が、唱えて以来論争はいまだに決着がついていない。最近、奈良・大和にある纒向遺跡で新たな発見があり、強く畿内説をアピールしている、しかし、確定してはいないままである。

そもそも「邪馬台国」とは３世紀の日本列島のどこかにあった女王国であり、その証拠とは中国の三国志（魏・呉・蜀）・魏志東夷伝・倭人の条に書かれた２００８文字を起源としている。

女王・卑弥呼が魏の曹操の子である、明帝に西暦２３８年に使者を送り朝貢したことに始まり、その魏王からの返礼の使者が日本へ訪れた旅の模様を書き留めた現代風に言えば出張レポートである。朝鮮半島の帯方郡（今のソウル近郊と言われているが、正確な位置は不明のまま）から、対馬・壱岐を経由し、博多（那の国）まで来た後、その旅をまだ水行二十日、陸行１月と続けて、女王・卑弥呼の居る「邪馬台国」に辿り着くまでを綴っている。

その畿内説には、大和郡山説や箸墓古墳説（纒向遺跡内）があり、一方の、九州説の中には、博多説、香椎説、豊前宇佐説、筑後山門説、筑紫高良山説、朝倉甘木説、等がある。

その朝倉・甘木を訪ねて、歴史ロマンを味わって来た。ここには、夜須（やす）川や安川村と言った地名があり、「古事記」に出ている天の安川に比定されているのも、この説を理由とされている。また、その外に、笠置山、御笠山、大三輪神社、鷹取山が北から南へ連なっている。

これは奈良・大和地方と同じ地名の配置が笠置山、三笠山、三輪神社、朝倉（奈良・桜井市）、高取山等と、多少の字句の違いはあれ、大変似たものがある。これは、この地の豪族が、ここから大和へ移って行き、大和地方を制圧したとする説の根拠とも言われている。神功皇后が新羅遠征の時、祟りを及ぼす神を鎮めるために大三輪神社を建て祀っているが、この神様は大国主命（おおくにぬしのみこと）とされており、大和の三輪神社の祭神も同じ大国主命である。

この神社から僅かの所に、径百歩の卑弥呼の墳墓と言われる小丘もある。この辺りには弥生遺跡が点在しており、祭祀用の器台が出土しているし、銅矛や銅剣に鏡も発見されており、これらは魏志倭人伝に記載されているものである。しかし、それらの墳墓は小さなこんもりとしたものである。だから、畿内説を取る人たちは、墳墓のサイズから箸墓古墳や古市古墳辺りが「邪馬台国」とする根拠にしているのだが。

同時に、大和地方を含め畿内や中国・四国で多く出土している銅鐸は、逆にこの朝倉・甘木を含めた九州では全く発見されていない。魏志倭人伝には、銅鐸は一切記載されておらず、この点が九州説の人たちの拠り所ともなっている。

今回は時間の都合で廻れなかったが、この近くには山門と書いてヤマトと呼ばれて、倭に比定される土地があり、卑弥呼が居住したとされる神籠石（こうごいし）もある。

また、久留米の近くには秦の始皇帝の陵に似た四角形のピラミッド状の方墳も見付っておりその石棺の中からは勾玉や鏡に青銅の剣があり、もしかすると、これが卑弥呼の墓かとも。私見だが、「邪馬台国」は九州にあって筑紫平野のどこかにあったのではと？？？

いずれにせよ、大いに古代史に繋がる地で、歴史ロマンを駆り立たせてくれる土地だった。

バーチャルリアリティの駿河台キャンパスを前に熱演の落語家柳家さん喬師匠

創立 125 周年記念式典に中央大学の原点と未来を見る
「知の入り口にして、すべての知の守護者たる“白き門”」

中央大学創立 125 周年記念式典が 2010 年 11 月 13 日（土）晴天のもと多摩キャンパスクレセントホールに 1600 人の列席を得て開催され、５０会からは山井会長が招待者として参列した。

音楽研究会の戴冠式行進曲「王冠」の奏楽で開幕した式典は、本学の描く未来像について力強く述べた理事長久野修慈、総長・学長 永井和之の式辞に続いて、鈴木寛文部科学副大臣、白井克彦日本私立大学連盟会長、本学創立者たちが学んだイギリス４大法曹院の一つである英国ミドルテンプルのエイドリアン・ウィットフィールド氏から祝辞をいただいた。なかでもウィットフィールド氏は本学のユニバーシティメッセージである「行動する知性 knowledge into action」が素晴らしいスローガンであり、中央大学が“白門”と呼ばれる謂われである「知の入り口にして、すべての知の守護者たる“白き門”」は、大学のあるべき姿を実に的確に表現していると述べ、大学関係者に改めて中央大学の原点とあるべき未来像を示した。

また、式典第二幕として黒田絵美子総合政策学部教授の演出・台本によるバーチャルリアリティ＆寸劇「中央大学 源流、記憶 そして未来へ」が上演された。最先端のコンピュータ・グラフィックスによるミドルテンプルや、かの神田駿河台校舎の高精細な映像による再現と落語家の柳家さん喬ほか３名の熱演、ピアノとバイオリン演奏がコラボレートした演出は、卒業生を懐かしい思い出の時間旅行に誘い、会場ではハンカチで涙をぬぐう白髪の後ろ姿があちこちに見受けられた。駿河台校舎で卒業した５０会の我々も、その懐かしい映像と感動の演技に触れた時、若き日に思いを馳せ万感胸に迫るものがあるにちがいない。中央大学公式Ｗｅｂサイトで公開中の１２５周年記念式典映像（トップページ右にバナーあり）を是非ご覧いただきたい。

文・外村　幸雄

ジャカランダの並木道を歩く人たち（マラウイ・ブランタイヤ市）

政金さん１問１答　「援助を必要とする国は世界中に、特にアフリカに多い」

ーなぜマラウイに？

自動車整備士学校の講師を退職するに当たり、まだ自分は仕ことができると思い JICA を通じ世界中に仕事を求めました。

ーマラウイに決まった時の心境は。

自分のやれる所があればそれはどこでも構わないと思いました。

ーどこに所属され、どのようなお立場なのでしょうか。

ブランタイア市役所の車輛整備課というところでワークショップに対するアドバイザーをしています。

ーお仕事の具体的な中身は。

エンジニアリング・セクション所属の４０台程の車両の運行前点検とワークショップメンバーに対する整備技術、部品管理の指導をしています。

ー渡航するに当たって周りから反対はありましたか。

特になかったですが、一つずつ根回しをして元気に帰ってくることを約束しました。

ー気候風土は。

涼しい乾季（４～８月）、暑い乾季（８～１２月）、雨期（１２月～３月）に大別されます。最も涼しい６～７月で最低気温は１０℃以下になります。最高気温は１０月で３５℃を超えますが木陰に入るとさわやかな風が吹いていてとても気持ちが良いです。

ー仕事のペースは（週休２日とか）。

月曜から金曜まで毎日出勤、土日は休みになります。

ー平日はどんな風に過ごされていますか。

月～木曜日は朝７時から運行前点検の指導、ワークショップで現場の整理（５Ｓ）の指導、整備技術の講習等をやっています。金曜日は市役所でデスクワークをやります。

ー休日は何をされていますか。

洗濯、掃除をしてブランタイヤ市内に出かけて昼食をとり、オープンマーケットで１週間分の野菜を買います。

ー食事は何を？日本食はありますか。

日本の味噌や中国製の醤油、豆腐なども手に入ります。もちろんおいしいお米も手に入ります。コメの栽培の指導なども JICA でやっています。

ー苦労は何ですか。

治安の関係から常に何らかの緊張を強いられることです。

ー現地の人たちの暮らしぶりは。

非常に質素で、やはり貧しい生活をしています。

ー周囲に日本人は何人くらい居ますか。

ブランタイヤ市内で JICA 関係者が８人ほど居ますが、顔を合わせることは滅多にありません。

ー現地の人で政金さんの仕事に関わっているのは何人くらいですか。

ワークショップのメンバーで２５人ほどです。

ー嬉しかったことは。

今年１月に家内を伴ってマラウイに戻って職場に行ったとき、皆で歓迎してくれたことがとても嬉しかったです。

ー驚いたことなどありましたか。

マラウイの子持ちの女性はどこでも（ミニバスの中でも）赤ちゃんに乳房を含ませることです。

ーマラウイがんな国になって欲しいと思いますか。

外国の援助に頼らないで、経済的に自立して欲しい。現在は国家予算の４０％を外国の援助に頼っています。

ー日本では海外勤務を嫌う若者が増えていると聞きますが、どう思いますか。

海外に出て外から見た日本、これは外からでないと分かりません。良い事も悪い事も。援助を必要とする国は世界中に、特にアフリカに多い事を知ってほしい。現地の人とともに生活をし、実情を若い時に経験することは、その後の人生に大きな糧（かて）を得ることになります。

ー他には。

世界中で自分を必要としてくれる所はどこかにある。そこに行っていろいろな問題はあるにしても、充実した生活が送れることは素晴らしい事だと思います。やってみたいと思う人はぜひチャレンジしてみて下さい。訓練所の時の仲間は、老いも若きも皆同期としてこれからの宝物になります。

聞き手　山下　史雄

◆５Ｓとは　（１）整理（２）整頓（３）清掃（４）清潔（５）躾　の頭文字。職場の環境整備に利用。政金さんはこれを取り入れて職場の美化から始めたそうです。日本では病院で医療事故を無くす取り組みに活用も。マラウイに派遣された看護師さんで、これを専門に病院で指導している人がいるそうです。